

# わくわくをたのしもう



毎日をいかがお過ごしですか。

季節外れの暖かさが続いた11月も過ぎ、日に日に寒さが増しています。

冬支度が進む里山は、また来る春の物語を待っているようでもあります。

東日本大震災の発災から間もなく10年。

断たれたなりわいを、生きがいを、人のつながりを、

つなぎ直し、新たにつくり、歩んできた道のりがあります。

「元通り」は難しい、だから「新しいふるさと」をつくろう、

いつか私達は、そう励まし合ってきました。

これからは、この経験をした私達だからこそできる、ふるさとづくりを。

村に戻った人も、二地域で暮らす人も、新たに住む人も、交流して関わる人も一緒に。

多様性はそのまま可能性の広がりだにとらえることができます。

村をつくってきた先人がそうしてきたように、私達も手を結び合って、

ふるさとを「わくわく」させていきましょう。

**たくさん「わくわく」で  
ふるさとを輝かせよう**

「明日が待ち遠しくなる  
ようなわくわくする楽しい  
ふるさとを目指そう」。10月  
に就任した杉岡誠村長の言  
葉です。そして、「ふるさとに  
愛着を持ち、前に向かって力  
強く進んでいくことを楽し  
み、喜びを共にする全ての人  
が、ふるさとの担い手」。関わ  
る人に内と外の隔てはない。  
それぞれの想いを、飯館村と  
いうキャンバスに描いていこ  
う」と呼びかけました。

「わくわく」は、楽しみな  
気持ちや期待が、心にあふれ  
ている様子を表す言葉。取  
り組みや挑戦の過程も楽し  
みながら、人々が「わくわく」  
してふるさとに関わっていけ  
たら、そこから活力や輝きが  
増していくのは、想像に難く  
ないところです。

**関わる人はみんな  
ふるさとの「担い手」**

飯館村は開拓の村。先人  
達は、冷害や飢饉の壊滅的  
な被害をたびたび乗り越え  
て、村を形づくってきました。  
あるものを生かし、人々が助  
け合って、丹念につくり上げ  
てきた美しい村です。

その里山の風景や、人々の  
温かさが、村特有の魅力と  
なっているのではないでしょ  
うか。震災後に移住をした多  
くの人が、村の風土や村民性  
にひかれるものがあると語っ  
ています。

震災と原発事故による全  
村避難を経て変化した現状  
が、新たなスタート地点とな  
り、ふるさとづくりもここか  
ら進んでいきます。来年度か  
ら運用が始まる「第6次総  
合振興計画」も、そうした視  
点に基づいて策定されまし  
た。現在地にしっかりと足を  
踏みしめて、「わくわく」しな  
がらふるさとづくりに取り  
組んでいきましょう。

次のページからは、村の中  
で生まれている「わくわく」  
な動きや、出会った皆さんに  
聞いた身近な「わくわく」  
をお届けします。